

## 【vol.56】マイナーキー実践編 ～その5～ 楽曲の中での使い方

どうも、大沼です。

“マイナーキー実践編”としてやってきた内容も、すでに5回。

これまでは基本的な知識や考え方をメインに、  
多少の譜例を載せていましたね。

今回は、ここ5回のまとめとして、実際の楽曲をモデルに、  
実践ではどのように使うのか？という所を見ていきましょう。

知識的には、わからないことがあったら、  
過去のテキストに戻って復習して下さい。

それでは、始めていきましょうか。

いつもの様に、key=Am でいきます。

なのでまず、これまで覚えてきた、

- ・ key=Am のダイアトニックコード
- ・ A マイナーペンタ
- ・ A マイナースケール
- ・ A ハーモニックマイナースケール
- ・ EHmp5↓スケール

辺りを確認しておいて下さいね。

いくつかの譜例にはモデルとなる楽曲がありますが、  
テキストに載せる楽譜はすべて key=Am に移調してあります。

原曲のキーも表記しておきますので、原曲を弾きたい場合は、  
各自で移調して弾いて下さい。

移調の仕方がわからない、と言う場合は、過去のテキストのキーとダイアトニックコードの仕組みを復習して、自分で考えてみましょう。(※「移調」なので、元のをそっくりずらすだけです。)

この講座の目的は、『自分の力で音楽を理解できるようになること』ですので、まずは頑張って、自分の力でチャレンジしてみてくださいね。

それでは、最初の譜例はこちらです。

※万が一、以下のリンク先が削除されている場合は、曲名などで検索するか、音源を購入してください。

### 譜例 1 : Rainbow - “I Surrender” 風フレーズ

youtube 原曲リンク ※原曲は key=Gm

<http://youtu.be/EJ29pVhsdMs>

(※ 譜面の該当箇所は 0:58～)

The image shows a musical score for a guitar piece. It consists of two systems of music. The first system has three measures. Measure 7 starts with an Am chord and a melodic line starting on G4. Measure 8 has a Dm chord and a melodic line starting on A4. Measure 9 has a G chord and a melodic line starting on B4. The guitar accompaniment for these measures is: Measure 7: 5 (T), 7 (A), 5-7-5 (B); Measure 8: 9-7 (T), 5-7-5 (A, B); Measure 9: 4 (T), 5 (A), 7-5-7 (B). The second system has three measures. Measure 10 has a C chord and a melodic line starting on C5. Measure 11 has an F chord and a melodic line starting on D5. Measure 12 has an E7 chord and a melodic line starting on E5. The guitar accompaniment for these measures is: Measure 10: 7 (T), 7 (A), 7-5-4 (B); Measure 11: 7 (T), 7-5-7 (A, B); Measure 12: 7 (T), 6-6 (A, B). There are two 'full' annotations with arrows pointing to the 7th fret on the A string in measures 10 and 11.

この曲のポイントは、6小節目の3、4拍目で、V7が出てくることです。

キチンとスケール(使っている音)がAマイナースケール(or Aマイナーペンタ)から、Aハーモニックマイナースケール(の構成音)になっていますね。

このG#は次のE7コードの先取りの、導入的に弾いている

譜例ではあえてkey=Amにしていますが、原曲はkey=Gmなので、Gマイナー系のスケールを使うと、曲に合わせてソロが弾けます。  
 (※実際に、音源に合わせて弾いてみましょう)

### 譜例 2、The Eagles -”Hotel California”風フレーズ

youtube 原曲リンク※原曲は key=Bm

<https://youtu.be/5a1rZrnUIRg>

(※ 譜面の該当箇所は 4:19～)





「ん？ミスってんじゃないね？」と思われるかは、その辺の鍛え方によります。

ちなみに、ここで言う、「理論を無視する」や「ハズす」と言うのは、西洋音楽的なロジックをベースにした時の観点です。

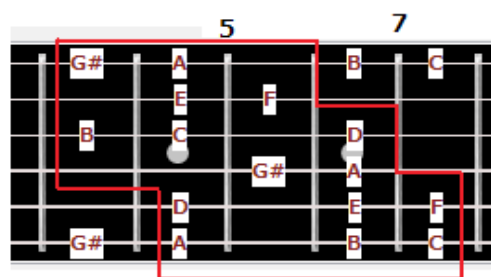
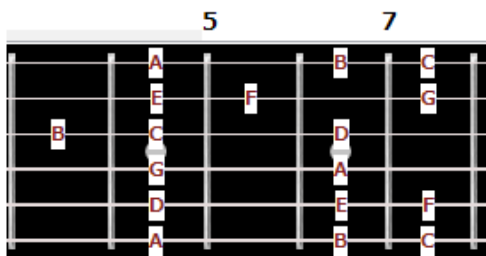
なので、そもそも西洋音楽とは違う発展をした音楽の場合、外すも外さないも無く、そうするのが普通、と言う場合も多々ありますので。(※純粋なブルースなど)

さて、話を戻しますが、譜例1、2、共に、V7に対する基本的な対応法としては、これまで学んだように、ナチュラルマイナースケール(or マイナーペンタ)から、ハーモニックマイナーに切り替える、と、言うことですね。

A ナチュラルマイナー

⇔

A ハーモニックマイナー(=EHmp5↓)



これまでお話ししてきた様に、ここがマイナーキーの最初の重要なポイントになります。

では、次に“ジャズっぽいヤツ” っていみましよう。

どちらかと言うと、ジャズの場合、V7ではオルタードスケールなどが使われる事が多いのですが、今回はハーモニックマイナー系のトレーニングなので、フレーズを無理やりハーモニックマイナー系にしてみました。

譜例3、key=Am(II - V - I) ex.1

それぞれのコードに合わせて、

Bm7( b5)⇒B ロクリアンスケール(=A エオリアン=A ナチュラルマイナー)

E7⇒EHmp5↓スケール(=A ハーモニックマイナー)

Am7⇒A ナチュラルマイナースケール

と、スケールを切り替えている事に注目してください。

そしてもう1つ大事なのが、

『今、弾いている音は、バックで鳴っているコードに対して何度なのか？』  
と言う事です。

これまでもやってきたことですね。

この、インターバルの関係を把握しておかないと、  
いくらフレーズをコピーしても、他で使えないことが多いです。

最初は面倒に感じるかもしれませんが、長い目で見ると、どんどんコピーと分析の  
スピードが上がっていき、結果的にインプットの時間短縮になるので、  
「後々楽になるんだ」と思って、ちょっと踏ん張って分析してみてください。

では、もう2つくらい、“ジャズっぽいヤツ”の事例を弾いてみましょう。

#### 譜例 4、key=Am(Ⅱ—Ⅴ—Ⅰ) ex.2

7 5 7 5 6 5 7 6 5 7 4 5 6 8 7 4 5

#### 譜例 5、key=Am(Ⅱ—Ⅴ—Ⅰ) ex.3

さて、譜例 4 と 5 の E7 の部分では、先ほどのような EHmp5↓スケールで見る事も出来るのですが、ちょっと感じを変えて、「G#ディミニッシュスケール」系のフレーズにしてみました。

「え？なんで急にディミニッシュスケールとか出てくんの？」と思うかもしれませんが、以前の講座で確認した、ハーモニックマイナーのダイアトニックコード表をもう一度思い出してください。

vol.53 でちょっと出てきたんですが、その時、

『全部覚えなくても良いけど、I mM7 と V 7、後はVII dim7 の所だけ確認しといてね』

みたいな事をお話しました。

### ※ハーモニックマイナースケールのダイアトニックコードとモードスケール

- I mM7      ハーモニックマイナー
- II m7 b5    ロクリアン 13th
- b III augM7   アイオニアン #5
- IV m7       ドリアン #4
- V 7(b9)     ハーモニックマイナー P5th ビロウ (or フリジアン #3)
- b VI M7      リディアン #9
- VII dim7    オルタード b b 7**

で、先ほど譜例 4 と 5 に使ったという、ディミニッシュスケールなのですが、VII度のコードはディミニッシュコード(Xdim)になっていますよね。

「ディミニッシュスケール」と言うスケールが、存在していることを知っている人は多いと思いますが、「そのスケールがどこから来てるのか？」については、あまり知る機会が無いと思います。

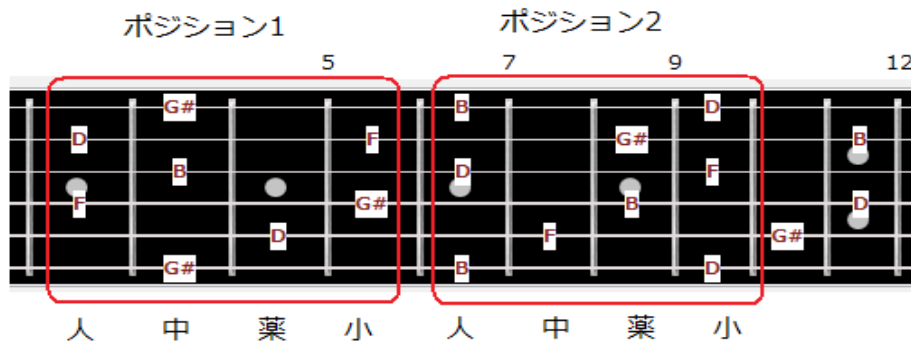
このスケールの大本の起源は、恐らくクラシックの論法で(※確証は持てません)、



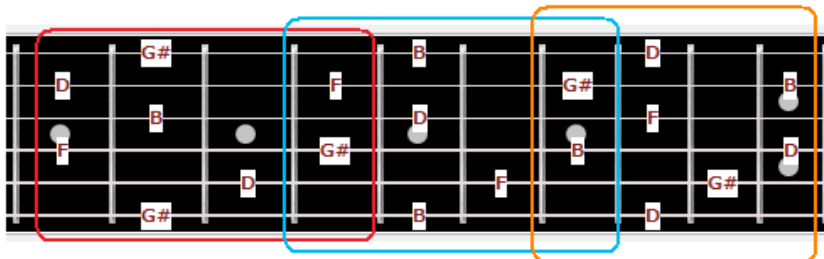
音楽理論的にどこに分類されるのか？と言うと、(初期段階としては)上記のハーモニックマイナーのモードから来ています。

『ディミニッシュスケールそのもの』の詳しい解説は、後の講座でやっていきますので、まずは下のスケール図とフレーズを見比べて、細かい事は置いて、何となーくで良いので把握しておいてください。

図、ディミニッシュスケールのポジション(スケールの覚えやすい形)



※スケールの構造上、まったく同じ形が3フレットごとに繰り返される(ポジション2も同じ)



スケールトレーニングをする時は、最初の段階では、図に描いてあるように、フレットごとに使う指を固定して弾いてください。

例えば先の進行でソロのを練習する場合は、key=AmのV7であるE7の上でディミニッシュスケールを使う事になるのですが、

どうやったら次のコード(I mであるAm)のコードトーンに、半音か1音の距離でスムーズに移行できるか？を考えてフレーズを作ってみましょう。

実際に、これまで載せた譜例は全て、半音でAmのコードトーンに解決していますよね？それを参考に、自分でI mに解決するフレーズを考えてみて下さい。

(※後はⅦディミニッシュスケールの構成音が、Iハーモニックマイナーの構成音の中に、

全て入っている事もおきましょう)

(※※後、ディミニッシュスケールについては、後々、詳しく解説します)

と、言う事で、今回は以上になります。

今回の重要なポイントである、

- ・それぞれのコードに対するスケールチェンジ
- ・バックで鳴っているコードと、弾いているフレーズのインターバルの関係
- ・ハーモニックマイナーのモードとしての、ディミニッシュスケールの関係

これらをしっかりと確認しておいてくださいね。

では、また次回。

ありがとうございました。

大沼